

平成24年度3月補正予算 および 平成25年度当初予算案についてお伺いします。

私たちはよく市の予算をわかりやすく理解するために億円を万円に置き換えた形で、家計簿に例えられた広報誌などを目にする場合があります。そこで思うのは、例えば、平成24年度当初予算では、福井家は金融機関から165万借入れをし、ローン返済を154万しています。25年度当初予算では金融機関から158万借入れし、175万を返済しているという事になるでしょうか。毎年自動車一台分の借金をし、同じ額くらいの返済をしていることとなります。その他にも医療費（扶助費）として200万以上の出費があり、家計を預かるものとしてはなかなかの苦労が必要であろうと推測されます。福井家の一員としては、収入が減り、毎年の借金やローン返済、その他の出費額を見るにつけて本当に将来にわたって大丈夫なのか、出来るだけ細かく確認する必要があると考えます。

さて、元の単位に戻りますが、平成25年度当初予算案では対前年度比0.6%増の1,039億900万円が計上され、平成23年度に次ぐ過去二番目の規模となっています。25年度予算編成の基本方針にもあるように、福井市の財政状況について「決算見通しは、歳入の根幹をなす市税で減収が見込まれるうえに、扶助費など義務的経費の増が予測されるなど、依然として厳しい状況が続いている。」となっているなか積極的な予算編成であると思えます。

国は、日本経済再生に向けた緊急経済対策に基づく平成24年度補正予算と一体的に編成された、いわゆる「15か月予算」として平成25年度予算が編成されており、本市の予算編成においても、国の緊急経済対策に適切に呼応し、地域の元気臨時交付金を活用しながら平成24年度補正予算と平成25年度当初予算を一体的なものとして位置づけていることから、私も両方の予算案を関連付けながら目を通し、市債、公債費の部分を中心に何点かお伺いしたいと思えます。

まず、3月補正予算では一般会計で48億7,010万3千円増額されています。そのうち20億8,760万円が市債で賄われ、24年度の市債の総額は187億3,910万円となります。

結果、市債残高が過去最高の1,427億円となる見込みで、第六次総合計画、実施計画の健全財政計画での24年度値1,423億を上回っています。一部報道の記事では、25年度は計画値1,456億に対し、1,429億となる見通しであり、今後の見通しに大きな影響はないとのコメントが書かれていましたが、本市は、福井国体までにとする福井駅西口中央地区市街地再開発事業、さらには北陸新幹線延伸など各種大型事業が待ち構えています。健全財政計画にあるような平成27年度の市債残高値1,493億円をピークとした見通しを描けるのか、ご所見を伺います。

またこれから先の大型事業によって若い世代に多額の借金を背負わせるわけにはいけません。直近の償還の期限や利率など償還方法はどのようになっていますか。お伺いします。

次に平成25年度当初予算から、市債、公債費に関連してお伺いします。市民が市政広報などで25年度予算案のみを見た場合、平成24年度より6億8,840万円少ない市債額と20億9,153万4千円多い公債費により24年度より借入金する額が少なく返済は多くできたという形に見えますが、補正予算を含めた15か月予算で見れば市債の残高は、実質増となるとの昨日の片矢議員への答弁であったかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

また、25年度当初予算案の市債額158億1,630万円のうち臨時財政対策債の金額が54億円あります。市債残高に占める臨時財政対策債の金額、割合は年々増加傾向にあり、臨時財政対策債の元利償還金は、後年度の地方交付税に理論的に全額算入されるとはいえ、地方債の扱いであること

に変わりはなく、注視が必要と考えています。本市の考え方と今後の見通しを伺います。

最後に、先ほども言いましたが、本市は、福井国体までにとする福井駅西口中央地区市街地再開発事業、さらには北陸新幹線延伸や市庁舎の改築など各種大型事業が待ち構えています。だからといって、私たちが住む地域、コミュニティーの維持を図るためにはそれぞれの地域での社会基盤整備や住民サービスの低下はゆるされません。義務的経費が歳出全体に占める比率が、平成23年度当初予算では51%、24年度は53.1%に、さらには、今年度は55.2%となったことについて、厳しい財政状況のなか、持続可能な財政運営の見地から、どのように評価されていますか。お伺いします。